



## 映画監督 横浜聡子さん

青森市出身。  
2002年に映画美学校に入学し映画製作を学ぶ。卒業制作の短編『ちえみちゃんとこっくんぱっちょ』が2006年CO2オープンコンペ部門最優秀賞受賞。2006年に制作した長編『ジャーマン+雨』が自主制作映画としては異例の全国劇場公開となり、2007年度日本映画監督協会新人賞を受賞。その後も『ウルトラミラクルラブストーリー』、『俳優亀岡拓次』等の映画を監督。最新作は2021年6月18日青森先行公開の『いとみち』。

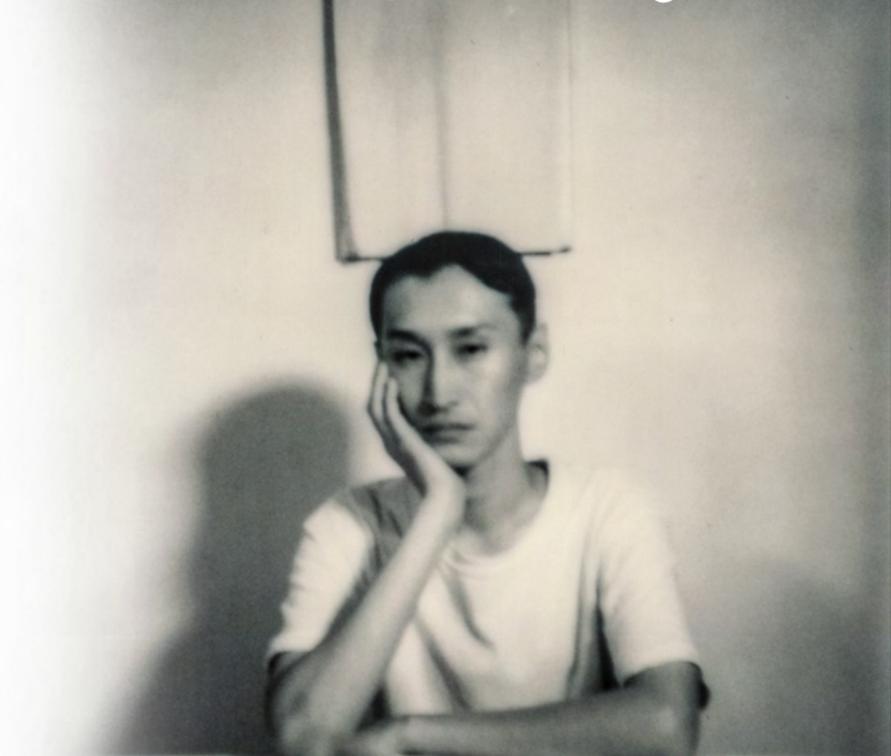
# わたしの未来はわたしがつくる

デザイナー

## 北澤武志さん

青森市出身。

2006年、都内にセレクトショップ“CANDY”を立ち上げ、オープニングディレクター兼バイヤーを経て独立。2009年に自身のブランド「DRESSEDUNDRESSED(ドレドアンドレド)」を立ち上げ、2012年東京コレクションデビュー。2013年にはロンドンで開催されたコレクション「インターナショナル・ウールマーク・プライズ」でVOGUEItalia編集長の推薦によるスペシャルエントリーで世界の6ブランドの1つに選出された。米津玄師やOfficial髭男dismといった著名人が「DRESSEDUNDRESSED」のコレクションを着用しており、話題を呼んでいる。



2021年6月18日(金) 青森先行公開

## 『いとみち』について横浜監督に聞く!!

★ご自身が育った地でもある青森市での撮影はいかがでしたか?

とにかく青森は人が温かいという事に気づかされました。撮影行為というものは、そこに住んでいるかたの日常の営みを中断させてしまうという非情な側面もあるのですが、この映画の撮影のために、地元の皆さんがあらゆることに笑顔でお力を貸してくださったことが一番嬉しかったです。

★監督から見た、主人公・相馬いとの魅力は?

自分の事は意外とよくわからないものです。わからないから知りたい、と思う気持ちが人間が生きていく原動力なのだと思います。自分を知るために、自分固有のやり方で、世界へ一歩ずつ歩み出そうとする“いと”の勇気を観ていただきたいです。

★青森市民の皆さんへメッセージをお願いします!

この一年間、新型コロナウイルスの影響で今まで普通にできていたことができなくなり、何らかのストレスや変化を誰もが感じられてきたことと思います。皆さんにとって、映画を観る時間がそんな鬱憤を一瞬でも忘れる時間であつたら嬉しいです。6月の公開をどうか楽しみにしててください!



©2021『いとみち』製作委員会



横浜監督最新作! オール青森ロケ、津軽弁青春ムービー

## いとみち

監督・脚本 横浜聡子  
出演 駒井蓮、豊川悦司

津軽地方を舞台に津軽三味線が得意な少女の成長を描いた越谷オサムさんの小説「いとみち」が原作。三味線が得意な主人公・相馬いとは、弘前の高校に通う16歳。津軽訛りと人見知りのせいで、本当の自分を見せられず友人も少ない"いと"は、思い切ってメイドカフェでアルバイトを始める。バイト先のオーナーや同僚、常連客たちとの関わりを通し、自分らしく"いと"が成長していく姿を描いている。

映画『いとみち』公式サイト  
<http://itomichi.com/>



新型コロナウイルス感染症の拡大は女性の雇用や生活に大きな影響を与えています。  
内閣府男女共同参画局の資料によると、2020年4月の女性の就業者・雇用者数は前月から大幅に減少し、減少数は男性の約2倍。雇用形態別で見ると非正規雇用労働者の減少幅が大きくなっています。  
元来、女性は男性に比べて非正規雇用者の割合が高いです。給料も手当も少なく、雇用の保障もほとんどない状態で働いている女性たちが、感染症拡大による解雇や雇い止めといった雇用情勢悪化のしわ寄せを受けました。ひとり親家庭においては、その影響がより深刻であり、貧困に直面している家庭もあります。

## コロナ禍と女性

また、コロナ禍においては、人々の生活に不可欠である医療、介護、保育、スーパー等の現場で働く「エッセンシャルワーカー」が注目を浴びましたが、これらの現場の多くが非正規雇用の女性で支えられており、社会に必要な労働に十分な労働条件が保障されていない現状が浮き彫りとなりました。加えて全国のDV相談件数、女性の自殺者数が増加。健康、生活の維持・収入といった生活意識については、感染症拡大前に比べて女性の方が不安が増しているとの調査結果もあり、女性のメンタルヘルスへの影響も深刻です。こうした中、国では2020年9月に「コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会」を設置。新型コロナウイルス感染症が女性の雇用や生活等に与えている影響を分析し、女性の視点からの政策課題の把握を進めています。

<発行>  
青森市 市民部 人権男女共同参画課  
〒030-8555 青森市新町1-3-7  
☎017(734)2296 FAX017(734)5765  
<編集スタッフ>  
蝦名晶子 (NPO法人あおもり男女共同参画をすすめる会)  
齋藤純子 (ライター)  
※転載ご希望の場合はご連絡ください。

## アンジュール VIEW

### 性的マイノリティの25%が「アウトティング」を経験

本人が公にしている性的指向や性自認を、本人の了解を得ずに、他者に話してしまうことを「アウトティング」といいます。2020年に実施された性的マイノリティの方々約1万人を対象にした調査で、約25%の方がアウトティングをされた経験を持つことが明らかになりました。軽い気持ちや面白半分アウトティングをしまつたり、相談されたことを他者について話してしまう場合もあります。しかし、アウトティングは、打ち明けてくれた本人を深く傷つける重大な人権侵害です。何らかの理由で他者のセクシュアリティを知った場合は、アウトティングにならない言動を心がけましょう。

# INTERVIEW



「青森市で過ごした学生時代、どのような夢を抱かれましたか？」

「高校二年生の時に映像で人に何かを伝える仕事をしたいなと思い始めました。放送関係の仕事に興味を持ちつつ、実は小さい頃から一番憧れていたのは、恥ずかしながら歌手になることで、よくオーディションを受けていました……。」

「映画監督になりたいと思ったきっかけは？「苦労された」ことは？」  
大学に進学し、神奈川県で暮らしていました。ゼミに映画好きの友人がいたり、東京にはたくさん映画館があったり。青森にいた頃には観たことなかったアメリカ映画やヨーロッパ映画を観るようになり、映画と自分の距離が縮まりました。企業に就職してからも映画への興味が尽きず、一年で会社を辞めて、映画学校に入りました。監督になりたいというよりも、映画作りの成り立ちかたを知りたかったのです。」

「一般企業の就職活動の際に、面接官から「女性はどうせ子どもを産むから（会社を辞めてしまう）」と言われた。腹が立ちました。映像の仕事は幸い受けた記憶はありません。ただ、男性が圧倒的に多い職場なので相談しづらいことがあったり、肉体労働的な側面もあるので、体力が周りに追いつかなかつたりすることは、今でもあります。体が疲れると脳も働かないのでコントロールがちょっと大変です。」

「青森市で過ごした学生時代、どのような夢を抱かれましたか？」  
思うと様々な夢を想像していました。今も様々な夢を想像することは、変わることができていないのかも知れません。いつの頃からか、人に何かを与えられる人になりたい」と思うようになりました。」

「デザイナーになりたいと思ったきっかけは？「苦労された」ことは？」  
二十代前半、ヴァンテージアイテムやコレクションブランドを取扱うお店にオープニングディレクター兼バイヤーとして勤めていました。ある日、マルタン・マルジェラが来店し、ヴァンテージアイテムをリメイクした作品を購入してくれました。この出来事がデザイナーを目指すべきかどうかのきっかけです。きっかけをいただいたことに感謝しています。」

「デザイナーを目指すにあたり、私は服飾学校への進学や特定のデザイナーへの師事していたわけではなく、独学でデザインを学びました。そのことがある種のコンプレックスであり、そのコンプレックスこそが自分自身にとって大きな力になっていると信じています。」  
「影響を与えられていることや大切にしていないのはなんですか？」

## 未来は現在の積み重ね 今できることを丁寧に精一杯やる



映画監督 / 横浜聡子  
Satoko Yokohama

「影響を与えられていることや大切にしていないのはなんですか？」

「二十代の頃は人の助言もろくに聞かず、先のことまで大して考えず、その時やりたいことだけを選択し続けて、ここまで来てしまいました。将来のことや損得を考えると踏み出せないこともあるので、やりたいという気持ちに素直に向き合うことを今も優先しています。」

「仕事について言えば、毎回、どんな仕事もうまくいかない何かがある。でも、うまくいかなかったり、失敗したりした方がフィードバックの情報量も多いという利点もあります。次こそは」という気持ちが続けられる理由がもしあればいいですね。」

「今後についての展望は？」  
未来はわかりません。未来は現在の積み重ねなので、今できることを丁寧に精一杯やります。」

「自分の未来をデザインし、行動しようとしている方へアドバイスをお願いします。」

「デザインとは一つ一つのバラバラなものを組み立てて、全く違うものへと表出させることのように思いますが、まずは、今ここで何をやってどう組み立てるかを決める」ことが大事かと思っています。そこから先は変容していくものだし、それが悪いこととは思いません。たとえ自分が目指していたものと違ったかたちになるうとも。」

「今を自分らしく生きていく人は未来をどのように描き、つくりあげてきたのか。」  
青森市で育ち、映画、ファッションの世界でクリエイティブな才能を発揮しているお二人にお話を伺いました。」



デザイナー / 北澤武志  
Takeshi Kitazawa

「人生は選択の繰り返しと解釈できていると考えています。自分の答えを信じる。自分を信じるための努力を怠らないこと。そして選択したことに後悔の念を持たないことです。」  
「また、知らないことを知りたい欲求とそれのための努力をすることが好きです。」

「今後についての展望は？」  
美しいものをもっと理解できたいなと思います。」

「自分の未来をデザインし、行動しようとしている方へアドバイスをお願いします。」

「私の好きな言葉で車椅子の物理学者ホーキング博士が残した言葉があります。「人生は、できることに集中することであり、できないことを悔やむことではない。」どんなに人生が難しく感じられたとしても、必ず自分に出来ること、そして成功できることがあります。」

「新型コロナウイルス感染症により、世界が不安に包まれる中、私達が皆様から勇気をもらうように私達もコレクションを通して少しでも希望を与えることが出来ればいいなと思います。困難な時期ではございますが、みんなが助け合い乗り越えていきたいと思います。」

## 自分の答えを信じ 自分を信じるための努力を怠らない